

2021年度

事業報告書

自 2021年4月 1日

至 2022年3月31日

一般社団法人おいでん・さんそん

2021年度事業報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

1 事業の概要

一般社団法人おいでん・さんそん（以下「一社 OS」という。）は、都市と山村が抱える課題をひとつながりのものとして捉え、都市と山村それぞれが持つ強みを生かして支え合い、新しい魅力や価値を生み出し、人口減少、高齢社会の下でも、さまざまな暮らしが選択でき、持続可能で人々が幸せに暮らせる社会を実現するために設立され、5年を経過した。

今期も収束が見えない新型コロナウイルス感染症の流行の中でスタートしたが、感染症対策に十分留意しながら、おいでん・さんそんセンターの運營業務を中心としつつ、すげの里指定管理業務、人材育成事業や自主事業である専門部会事業等を実施した。

新型コロナウイルス感染症は、私たちが志す、支え合い、助け合う社会の重要性を浮き彫りにした。こうした中、豊田市は「山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例（以下「山村条例」という。）」を制定し、「おいでん・さんそんプラン」に「おいでん・さんそんセンター」が重要な推進機関として位置付けられた。そこで、今期の総括も踏まえ、コロナ禍後の山村地域の自治のあり方を見据えた、新たな一社 OS の役割を検討して取組を進める必要がある。

2021年度の重点取組事項と成果及び2022年度に向けての課題は次のとおりである。

【重点取組事項と成果】

- ① コロナ禍が生み出した新たな社会課題に向き合い、目指す未来の実現に向けた新たな方向性、アクションについて研究・実践する。

山村条例により、コロナ禍後の持続的な山村地域の自治が豊田市にとって重要な課題であることが明確に位置付けられた。そこで、その担い手として期待される「関係人口」についてのセミナーを開催するとともに、啓発用のパンフレットを作成した。

また、重要性が一層増した今後のセンターのあり方について、理事を始めとした関係者と議論して、「新しい自治」について継続して研究を進めていくこととした。

- ② 交流コーディネート推進チームを組織し、新規のマッチング、実績事業の新展開サポートを推進し、課題解決、関係人口の拡大を図る。

新たなマッチングの形として、（一社）豊田青年会議所の会員が参加して山村地域の魅力や課題を体感する体験型マッチングツアーを開催するとともに、関係人口創出事業の一環として、羽布まちづくり委員会と森若蛙の会の炭焼き体験会の開催を支援するなど、25件のマッチングに取り組んだ。

また、三河の山里なりわい実践者を中心に6件の起業を伴走支援した。

- ③ 移住、起業、就農など「いなか暮らし総合窓口」機能の拡充を図り、「空家にあかりをプロジェクト2」などを通じ、定住先進地域のステップアップと山村地域全体への波及を図る。

「空き家にあかりをプロジェクト2」として、YouTube 番組「家主さんの悩みを解決！空き家活用のススメ」を 15 本制作して配信するとともに、DVD3 枚組を 20 セット制作した。

また、「空き家片付け大作戦」として、小原地区の 2 軒の空き家片付けをボランティアの募集などを行い、自治区と連携して実施した。

- ④ 山村地域をフィールドとする豊森なりわい塾、ミライの職業訓練校の運営による人材の育成、関係人口の拡大、フィールドとなる地域の活性化を図る。また、足助高校魅力化準備会などを通じて山村地域の教育のあり方について探求する。

第 10 期豊森なりわい塾は、コロナ禍の影響を受けて講座の延期があったが、20 人の塾生が受講して全 8 回の講座のうちの 6 回と補講の 3 回を実施した。ミライの職業訓練校は、10 人が受講したが、今年度も 6 回の全講座をオンライン形式での開催とした。

また、足助高校の魅力化については、高校魅力化プロジェクト準備会や図書館魅力化プロジェクト等に参加して伴走支援を行った。

- ⑤ 「すげの里」指定管理の適確な遂行および拠点として求められる機能の最大化に向け、「つくラッセル」などの地域拠点や団体等との連携を推進する。

コロナ禍の影響を受け、講座の中止やオンライン開催といった実施方法の変更があったが、自主事業等を 4 事業実施するとともに、新盛里山耕実行委員会と連携して「市民農園」の運営を行った。施設の利用者数については、延べ 1,900 人余で一昨年度並に回復した。

また、いなか暮らし体験の拠点施設として特色を活かした活用には至っていないため、一層有効な活用方法について定期的に支所と検討を行った。

- ⑥ 目指す社会の実現に向けたテーマ別の専門部会事業の活性化に努めるほか、(一社)里モビニティ、(一社)三河の山里コミュニティパワーなど関連する団体との連携を図る。

森林部会は、「とよた森林学校」のあり方について市・森林課と協議を重ねて、新たな事業化につなげた。

また、コロナ禍による制約の中でも、スモールビジネス研究会の 11 回にわたるオンライン開催を始め、食と農専門部会の「食と農のミライを考えるサミット」、次世代育成部会の「中山間地の高校進学を語る会」、セカンドスクール部会の五ヶ丘小学校による学校版セカンドスクールなどの開催を支援した。

【次年度に向けての課題】

- 課題1 コロナ禍が生み出した社会課題に向き合い、目指す未来の実現に向けた「新しい自治」を研究するとともに、先進地域の支援、他地域への展開を推進する。
- 課題2 市と連携して条例の啓発を行うことにより、山村住民の誇りの醸成と都市住民の理解の促進を図り、持続的な山村地域づくりのための具体的な行動につなげる。
- 課題3 「空き家にあかりをプロジェクト」や「半農半X」事業による移住、起業、就農の山村地域全体への波及と、「いなか暮らし総合窓口」機能を拡充する新たなプロジェクトとして「関係人口」を広げていくための検討を進める。
- 課題4 ミライの職業訓練校の運営や足助高校の魅力化支援等により、山村地域の教育のあり方を探求する。また、豊森なりわい塾の後継の人材育成事業を検討して、具体的な企画を進める。
- 課題5 プラットホーム会議に参加する仲間づくりを一層進めて会議を充実させるとともに、テーマ別専門部会の活性化に努める。また、「つくラッセル」、(一社)里モビニティ、(一社)三河の山里コミュニティパワーなど、関係する地域拠点や団体等との連携を図る。
- 課題6 「すげの里」の指定管理業務を円滑に進めるとともに、いなか暮らし体験の拠点施設として一層有効な活用方法を検討する。

2 事業の実績

別紙 「令和3年度事業実績報告書」参照

以上